

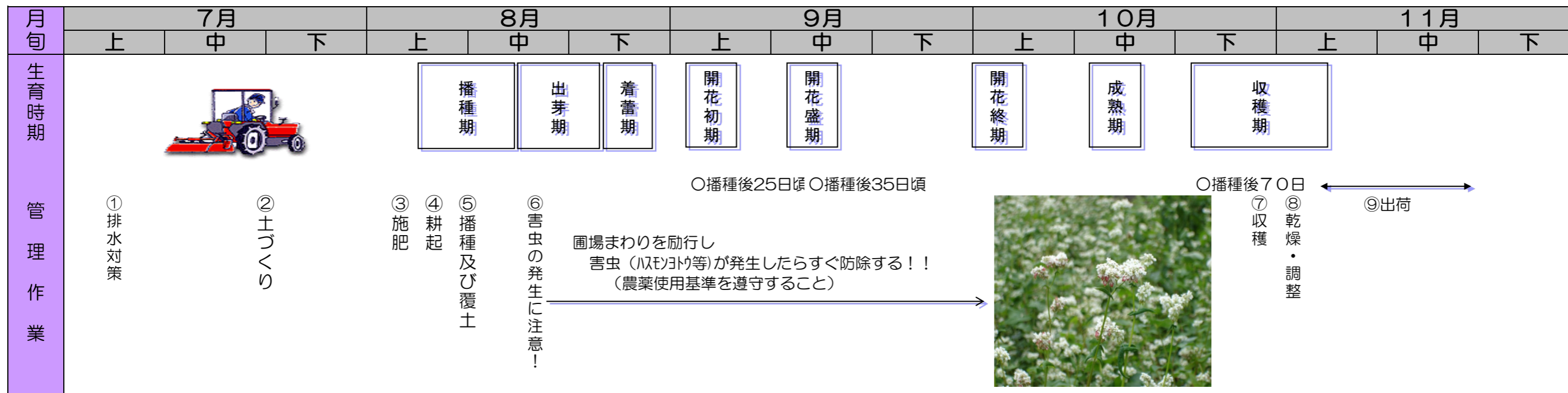
「黒部そば」栽培ごよみ

栽培ポイント

1. 湿害を受けやすいので、排水対策を徹底する。特に播種後～生育初期の停滞水に注意する(排水不良の圃場は適さない)
2. 播種時は土壌が乾きすぎている程度時に行いましょう(土が乾きすぎると発芽率が低下します)
3. 収穫時期は、子実の70～80%程度が着色した時で、コンバイン収穫は、晴天時に露が乾いてから収穫する
4. 霜に弱いので、初霜前に収穫できるようにする計画的な播種(排水対策含)を行う(富山県初霜平年値11月20日頃)
5. 子実水分は、14～15%を目安に仕上げ、選別を徹底する

目標単収
100kg/10a

黒部そば生産組合



①排水対策

- ・そばは乾燥に強いが、湿害に非常に弱い作物です。排水不良の圃場は避け、早いうちに予定圃場の額縁と内部に排水溝を設置し、圃場を乾かしておく。サブソイル等も有効。

②土づくり

- ・耕起前にpH6ぐらいを目標として、石灰質資材を散布する。

資材名	10a当たりの散布量
珪酸石灰	40～80kg

※弱酸性～中性土壌を目標に!

③施肥

- ・施肥量が多いと倒伏するので、地力に応じて施肥量を加減する。(基準量以上とならないよう注意する)

施肥区分	窒素成分量
基肥	2kg程度
基肥555で13kg/10a程度	

※追肥は、倒伏の恐れがあるので基本は施用しない!

④耕起

- ・耕起は、播種直前に土壌が乾いた状態でを行い、トラクターの速度を遅くして砕土率を上げる。また、額縁排水溝と併せて1.5～3.0m毎に排水溝を設置する。※耕起後はすぐ播種をする。(土が乾きすぎると発芽率が低下する。)

⑤播種及び覆土

1. 播種期 (播種時期早いと高温による稔実不良や倒伏危険)

播種時期	山間地	8月 1日～10日
	平坦地	8月 10日～20日

播種から開花期までの気温が高い → 花が多くつく
開花期から成熟期に気温が高い → 着粒数の減少

※播種後の長雨や豪雨が予想される場合は、播種を延期する。

品種：とよむすめ

特性：中生品種(信濃1号など)より収穫期が若干遅い。

2. 播種量

- ・散播では、播種量を6～7kg/10aとし播種後軽く、レキやドライブロー等により極軽く(1～2cm)覆土する。
- ・条播では、播種量を4～5kg/10aとし条間は30cmとする。播種深度3cm程度

⑥害虫・雑草対策 ※散布時ラベル等にて再度確認し、農薬使用基準を遵守!

圃場巡回を励行し、害虫(ハモンヨトウ)が発生したらすぐ防除!!一晩で壊滅!!

対象害虫・雑草名	防除薬剤名	使用時期	10a当たりの散布量	使用回数
ハモンヨトウ	粉剤 ロムダン粉剤DL	発生期 (収穫21日前迄)	4kg	2回以内
	液剤 ロムダンフロアブル		150～300L/10a (2000倍液)	
	液剤 ゼンターリ顆粒水和剤	発生初期 (収穫前日迄)	150～300L/10a (2000倍液)	—
1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラ除く)	ナブ乳剤	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 (収穫45日前迄)	100～150L/10a (葉150～200mL)	1回

※フェロモントラップは開花始期頃から地上1～1.5mに設置。(1haに2～4台)

⑦収穫

刈り取り時期の目安 開花最盛期後の積算520℃(目安)

子実の黒化率	粒の水分	茎の水分
70～80%	30～35%	80～85%

収穫時期：10月中旬～11月中旬(播種後70～80日後程度)

- ・霜に遭うと脱粒しやすくなるので適期を逃さないこと。
- ・できるだけ高刈りし、土や小石が混入するのを防止する。

⑧乾燥・調製

乾燥：品質を維持するため、送風温度は30℃以下とし急速高温乾燥は行わない。※乾燥前に異物を除去すると良い。

仕上げ水分	14～15%
-------	--------

- ・平型乾燥機等や天日干しで乾燥し、上記、水分に仕上げる。調製：唐箕選を行い屑、未熟粒、被害粒、異物を除去する。
- ・さらに厳選する場合は、揺動式の選別機等を利用する。

⑨出荷

- 一袋は紙袋含め23.0kgになるよう仕上げる。※専用紙袋には必ず、年産や生産者名等を記入する。
- ・出荷は随時行い、黒部市農協本店低温倉庫に搬入。